

部局名	安全環境部	所属名	環境保全課	所属長名	鶴岡 菊男	電 話	483-1151 内線3210
-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3677		事務事業名称	環境保全活動事業					短縮コード	経常	3677	臨時	3678
予算区分	会計	01	一般会計	款	04	衛生費	項	01	保健衛生費	目	04	公害対策費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		環境基本法、環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律、八千代市環境基本条例						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
○ほたるの里づくり事業→平成5年の環境基本法の制定に伴い、自然環境の保全等広範囲な環境問題に取り組む諸施策が打ち出された。また、市民からも自然保護や自然とのふれあいに対するニーズが高まっていた。 ○こども環境教室事業→今日の環境問題を解決するためには、次世代を担う子供たちが早くから環境へ関心を持つことが肝要である。このような目的を果たすための有効な施策として、こども環境教室が事業化された。 ○環境学習の支援→市民・事業者からの講演依頼、地球的規模の環境問題の深刻化、環境問題への関心の高まり、「まちづくりふれあい講座」の開始、小中学校での「総合学習」における環境学習の実施。 ○谷津・里山保全事業→後期基本計画に位置づけられ開始。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系		5本の柱（章）	03	安全・環境共生都市をめざして					
○平成15年に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が制定され、地方公共団体も積極的に様々な施策を実施していかなければならない。ほたるの里事業、こども環境教室及び環境学習支援事業のいずれもこの法律の趣旨に沿うものあり、今後重要度は更に増すものと考えられる。						大項目（節）	03	環境・衛生					
						中 項 目	01	環境との共生					
						小項目（施策）	02	自然環境・生態系の保全					
							03	環境保全活動の支援					
						細 項 目	01	自然環境の保全と管理					
							02	環境学習の推進と人材育成					
				実施計画の計画事業	3301	谷津・里山保全事業							
計画事業の位置付けの有無			☐	計画事業期間		平成11年4月 ～ 平成20年3月		計画事業費		千円			

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	1 八千代市ほたるの里づくり事業→市民 2 こども環境教室事業→小学校5・6年生 3 環境学習の支援→環境学習を希望する市民、事業者、学生、生徒、児童等							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成18年度に実際に行ったこと： 1 ほたるの里の維持管理、整備、ナイトウォッチング、学習会、会報発行他 2 市内小学校5・6年生を対象とした環境教室の実施 1回 3 環境学習の支援 環境講座→1回、学校環境学習支援→5回、ボランティア講師→1回、講師15名、利用者200人、昆虫展の学習会→2回、47人 4 谷津・里山保全事業							
	※平成19年度に計画していること： 平成18年度と同様							
意図 （何を狙っているのか）	1 八千代市ほたるの里づくり事業→ホテルの保全を通じ、自然保護意識の高揚と市民主体的活動を支援する。 2 こども環境教室事業→子供たちが自然とふれあう体験学習を行うことにより、環境問題を学び理解を深める。 3 環境学習の支援→市民・事業者等が環境問題に対する理解を深める。							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	1 ほたるの里づくり事業→ほたるの里（ホテルの生育地）をホテルメイトによって維持・管理される。 2 こども環境教室事業→子供たちが、環境問題について考え、環境に配慮した行動を取るようになる。 3 環境学習の支援→市民・事業者などが、環境問題について理解と認識を深めるとともに、環境に配慮した行動を取るようになる。							
区 分				単位	17年度	18年度		19年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	市民	人	184,979	185,327	186,650	189,000	
	指標2	市内小学5・6年生の児童数	人	3,521	3,500	3,577	3,710	
	指標3	環境学習を希望する市民、事業者、生徒	人	780	800	337	800	
活動指標	指標1	ほたるの里の活動回数	回	9	11	14	14	
	指標2	参加者数	人	40	40	22	30	
	指標3	各種講座開催回数	回	16	16	11	16	
成果指標	指標1	ホテルメイトの人数	人	177	200	133	200	
	指標2	こども環境教室への参加者数	人	40	40	22	30	
	指標3	環境学習への参加人数	人	750	800	558	800	
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	3677	事務事業名称	環境保全活動事業				所属名	環境保全課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			○市民・事業者における環境学習の意欲を高め、ボランティア講師が活躍する場を作る。 ○ほたるの里づくり事業においては、ホタルメイトへの参加を募る。 ○谷津・里山保全事業については、現況調査の実施、保全のための仕組み作りの研究、土地所有者・市民団体との協働、等を進めていく。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☒ その他							
☐ 廃止								
☐ 休止								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			谷津・里山保全のための現況調査の経費や計画策定の事務量増加が見込まれる。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
○ほたるの里づくり事業→市民の身近な自然環境に関する関心が高まっている反面、希少な動植物が盗まれてしまうこともある。自然を観察するうえでのルール の啓発も必要である。八千代市でも第2、第3のほたるの里をつくって欲しいという要望がある。 ○こども環境教室事業→学校での学習とは違った体験ができた と、参加者からは好評を得ている。 ○環境学習の支援→様々な市民団体、事業所、小中学校児童生徒、学校から、学習会への講師依頼や問い合わせがある。 ○谷津・里山保全事業→様々な市民団体や市議会から、保全の要望が出ている。									

所属長コメント	当該事業は、市民・ボランティア・NP0・事業者及び行政が共に自然環境の大切さを理解し、さまざまな事業に取り組んでおり、特に次代を担う子供たちへの環境学習は、今後さらなる取り組みが重要であると認識しております。								
評価調整委員会意見	☒ 改革改善して継続			市民参加により事業を推進すべき。また経費の増加については十分検証すべき。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☒ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☐ 現状のまま継続									